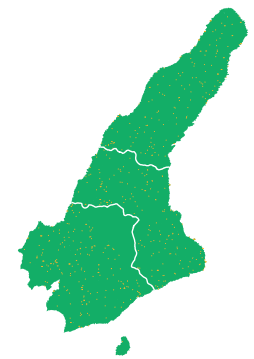


おめでとう！ 日本遺産認定！

Congrats!
Japanese
Heritage
certification!



Vol. 09

文化庁に認定された淡路島 日本遺産。 コロナに負けず、新しいニュースが生まれています！

2016年度、文化庁が淡路島の海人のストーリーを「日本遺産」として認定。5年目を迎える今年も全国から注目を集めるニュースが目白押しです。新しい発見が続々登場する日本遺産から目が離せません！



活動
報告
Report

日本遺産フェスティバル in 今治 に 淡路島日本遺産も出展してきました！



日本遺産が初めて認定されて、早や6年。今では全国に約100の日本遺産が誕生しました。そして、2020年10月10日(土)・11日(日)には、愛媛県今治市のテクスポート今治にて「日本遺産フェスティバル」が開催され、全国からPRブースが出展されました。淡路島日本遺産ブースでは、スマホRPG『はじまりの島』の紹介や銅鏡チョコ・瓦製の銅鐸・写古事記など、古代にちなんだグッズの販売、銅鐸づくり体験コーナーなど、存分に存在をアピールしてきました。

ニュース
News

アーティスト清川あさみがプロデュースする 国生み神話アニメーション「くにうみ」完成間近！



清川あさみ



キムラ緑子

日本最古の正史『日本書紀』の編纂 1300 年を記念して、淡路島が舞台となる「国生み神話」を島内はもちろん、島外や世界に発信するため、南あわじ市出身の著名なアーティスト・清川あさみさんが原画制作&総合演出を手掛けるアニメーションが、もうすぐ完成します。ナレーションは洲本市出身の女優・キムラ緑子さんが担当。完成が待ち遠しい！

活動
報告
Report

サポータークラブが玉青館で 観光ガイド研修を体験！



淡路島日本遺産の観光ガイドを目指すネットワーク「サポータークラブ」。今までも島外の日本遺産への見学、参加者同士で交流などを重ねてきました。2020年12月19日(土)に南あわじ市埋蔵文化財調査事務所の定松さんを講師に招き、松帆銅鐸の基礎知識から調査内容を座学で学び、コロナウイルス感染に気を付けながら、玉青館での実物を前にさらなるレクチャーを受けるとい、参加者の満足度の高い贅沢な時間を過ごすことができました。

▼ 定松さんからレクチャー

松帆銅鐸の基礎情報や約5年間の調査でわかった最新の研究内容を学びました。年代測定、点在する同じ鑄型の銅鐸、製造拠点など、情報盛りだくさん。



▼ 淡路島日本遺産の教科書

3市の教育委員会がタッグを組んだ『淡路島日本遺産の歩き方』。淡路島日本遺産の31の構成文化財、歴史年表、観光ルートなど、詳しく解説されています。



▼ 玉青館2階での解説

2020年11月12日(木)からスタートした青銅器の展示を、実物を見ながら徹底解説。参加者からたくさん質問が飛び交い、松帆銅鐸の謎に迫っていきます。



▼ 観光ガイドに挑戦

希望者を募り、松帆銅鐸や国生み神話など、観光ガイドにチャレンジ。一人ひとりの得意な知識が活かされた、魅力的なトークが披露されました。



● サポータークラブの新規メンバーを募集中！

淡路島日本遺産をもっと深く知りたい！歴史好きの人たちとつながりたい！など、幅広い方々が集まるサポータークラブでは、年に数回の勉強会・交流会を開催しています。クラブへの参加申込みは、一般社団法人淡路島観光協会(TEL:0799-22-0742)まで、お問い合わせください。

ニュース
News

淡路島日本遺産 RPG 『はじまりの島』大好評！



「古事記」の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」の歴史をロールプレイングゲームで体験。淡路島日本遺産RPG『はじまりの島』は、日本国内だけでなく海外からのダウンロードも増えています。まだ遊んでいない方は、レッツプレイ！

(プレイ時間/約25~30時間、敵モンスター/一般公募を行い、島内の小学生などが考案したデザインを基に作成、ゲーム内課金有)



ニュース
News

『全国くにうみ漫画ワールド カップ』の作品をHPに掲載！



2019年度に開催された淡路島を中心とした日本の歴史・文化を題材にした漫画作品の世界大会『全国くにうみ漫画ワールドカップ』。国内外から400点を超える応募作品が集まり、2020年3月に開催された表彰式では、著名な審査員に選ばれた受賞作品が発表されました。淡路島日本遺産ホームページでは、「淡路島日本遺産部門」「記紀万葉集部門」などの受賞作品を一挙掲載。いつでも読むことができます。

掲載されている受賞作者

総合大賞 / EIT1 淡路島日本遺産部門優秀賞 / 沖田敦也 淡路島日本遺産部門優秀賞 / 駒碧 淡路島日本遺産部門奨励賞 / ひびきるな 淡路島日本遺産部門奨励賞 / 淀屋橋行則	中学生以下の部 淡路島日本遺産部門優秀賞 / Sayu 淡路島日本遺産部門優秀賞 / きのわん 淡路島日本遺産部門奨励賞 / さくら 淡路島日本遺産部門奨励賞 / 高崎大起
記紀万葉集部門大賞&特別賞 / 更科 隼 記紀万葉集部門優秀賞 / KOTO 記紀万葉集部門奨励賞 / 加藤 碩斗	記紀万葉集部門優秀賞 / ジンバイザメ 記紀万葉集部門奨励賞 / 富塚 侑里
はじまりの島部門優秀賞 / 京弥生 はじまりの島部門奨励賞 / 無罪まこと	はじまりの島部門優秀賞 / 田中優奈

作品はこちらから御覧ください。 <http://kuniumi-awaji.jp/manga/>





歴史を変えた！南あわじの松帆銅鐸を見に行こう！

2015年に発見された松帆銅鐸が南あわじ市に帰ってきました

今年度最大の快挙！淡路市の舟木遺跡が国史跡に指定！

卑弥呼の時代に鉄器生産をおこなっていた巨大な集落だった



2020年11月20日 文化庁文化審議会答申



銅鐸7点を一斉に発見！

2015年4月、南あわじ市の石材加工工場から採集された砂山から発見。その中の1つは、弥生時代前期末～中期初頭の最も古い型の銅鐸で、音を鳴らす舌も一緒に見つかりました。

ここがスゴイ 1 約2200年前の紐が残っていた！



銅鐸の吊り手や4本の舌に、吊り下げるためのひも（組ひも・よりひも）やひもの跡が残っていました。これは全国で初めて。銅鐸の使い方の研究が大きく前進しました。

ここがスゴイ 2 土に埋められた祭礼の道具

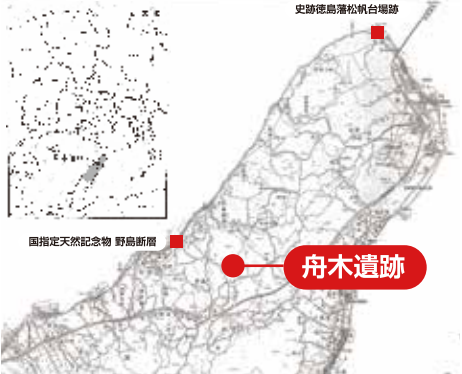


時代が変わると、祭礼の道具も変化。使わなくなった銅鐸は、神に感謝し埋められることに。過去にも銅鐸や銅剣が発見された松帆地域は当時の神聖な場所だったのかもしれない。

ここがスゴイ 3 当時は激レア金属の音に感動！



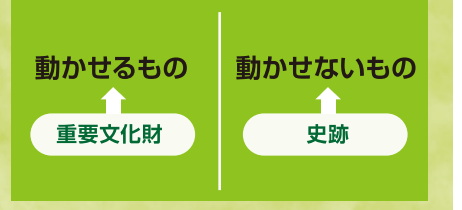
銅鐸を作る工房跡は、淡路島では見つかっておらず、摂津などで見つかっています。当時の銅鐸はとても貴重なもの。人々は、初めて耳にする金属の音に驚き、神の儀式に使ったのでしょうか。



舟木遺跡、どこにある？

淡路島北部の西海岸から約2キロ離れた標高150～200メートルの丘の上にあり、弥生時代後期から終末期（1世紀前半～3世紀前半）に鉄器生産を行う集落として大いに栄えました。

ここがスゴイ 1 国指定史跡ってどうスゴイの？



動かせるもの 重要文化財
動かせないもの 史跡

ここがスゴイ 2 54年前に小学生が土器を発見！



1966年、地元の小学生（安井陽子さん/写真は本人）が土器を拾ったことで大発見につながった舟木遺跡。その後、1990年、2015年からの調査で次々と新しい発見があり、歴史的な国史跡指定へとつながりました。

ここがスゴイ 3 選ばれた者だけが持てる中国の破鏡！



初期の発掘時に見つかった謎の緑色の塊は、中国から贈られた鏡の破片でした。当時とても貴重だったので、長が権威を表すために、装飾品として身につけていたんですって！

おかえりなさい！南あわじ市の松帆銅鐸！実物に出会える玉青館にレッツゴー！

約5年の間、研究・修復された松帆銅鐸7つのうち2つが、2020年11月12日（木）から南あわじ市滝川記念美術館 玉青館で展示され、本物の松帆銅鐸を目にすることが可能になりました。

おめでとう！舟木遺跡の国史跡指定！まだまだ知りたい淡路市のすごい遺跡！

弥生時代の島内の集落の中でも、舟木遺跡はおそらく特別な存在。弥生時代から古墳時代への移り変わりの中で、日本にとって重要な存在だったと考えられています。

専門家もビックリ！松帆銅鐸のココがすごい！

松帆銅鐸に詳しい 南あわじ市埋蔵文化財調査事務所 定松 佳重さん

——銅鐸と舌のセットでの発見は珍しい？

定松 入れ子銅鐸の中に舌があるのは、実は全国初。弥生時代には文献が残っていないので推測になるのですが、一緒に土に埋めるのは淡路島独特の儀式なのか、人々の気風なのか、謎は残りますがセットだったからこそ研究が一気に進みました。

——銅鐸グッズがたくさんありますね。

市内の生産者さんが定期的集まり、銅鐸や古代をテーマにしたグッズを作ってくれました。銅鐸のチョコや文鎮、風呂敷など、是非イベントなどで手に取ってみてください！



弥生時代にタイムスリップ VR体験で銅鐸に触れよう！

玉青館の中だけで体験できるVRが2018年に完成しました。ゴーグルをかけるだけで、弥生時代にタイムスリップ。松帆銅鐸を使っていた祭礼や米作りなど、弥生時代の生活を体験してみてください。

約20分・300円/回（別途入館料）。



2月終了の『弥生青銅の島』展で14本の古津路銅剣が勢ぞろい

2020年11月～2021年2月まで、玉青館で開催されていた「弥生青銅の島」展では、松帆銅鐸と同じ松帆地域から発見された古津路銅剣を展示。この銅剣は1966年に初めて発見され、現在は国と兵庫県の管理に。南あわじ市内で14本が勢ぞろいする、とてもレアな機会となりました。松帆地域は、松帆銅鐸と同時期の青銅器が数多く発見されています。



甲子園球場10個分の広さ！40ヘクタールの巨大な集落

今回、国の史跡に指定されたのは、鉄器をつくる鍛冶工房跡など約3.4ヘクタール。地形の変化が少ない地域ということもあり、弥生時代後期の淡路を考えると、とても重要な地域だと評価されました。調査対象は、もちろん全40ヘクタール。今後、調査を進める中で約2000年前の新しい大発見があるかも！



鍛冶工房を含む竪穴建物が20棟！鉄器170点以上を大発見！

国史跡に指定された鍛冶工房など竪穴建物や鉄器をたくさん発見。また3世紀前半に漁具や鉄器を祀（まつ）るお祭りの場所も特定。さらに他の地域からは出てこない中国製の鏡まで見つかりました。つまり、舟木遺跡は、国内だけでなく海外からも大きな信頼を集めた、交易・船旅をす際の経由地だったのです。

専門家もビックリ！舟木遺跡のココがすごい！

舟木遺跡に詳しい 淡路市教育委員会 伊藤 宏幸さん

——舟木の時代は、どのくらい続いたの？

伊藤 舟木が集落として栄えていたのは、弥生時代後期から終末期（1世紀前半～3世紀前半）。約200年もの間、続いていました。淡路島は、中国や朝鮮と畿内を結ぶ場所にあり、船が立ち寄る瀬戸内海の中でもかなり重要な拠点。たくさんの方が舟木を訪れていたと考えられています。

——島外の土器も発見されているんですって？

船が立ち寄る場所だからこそ、発見された土器には、近畿や九州など、各地で作られたものも。人やモノ、いろいろな情報が運ばれた証拠ですね！

